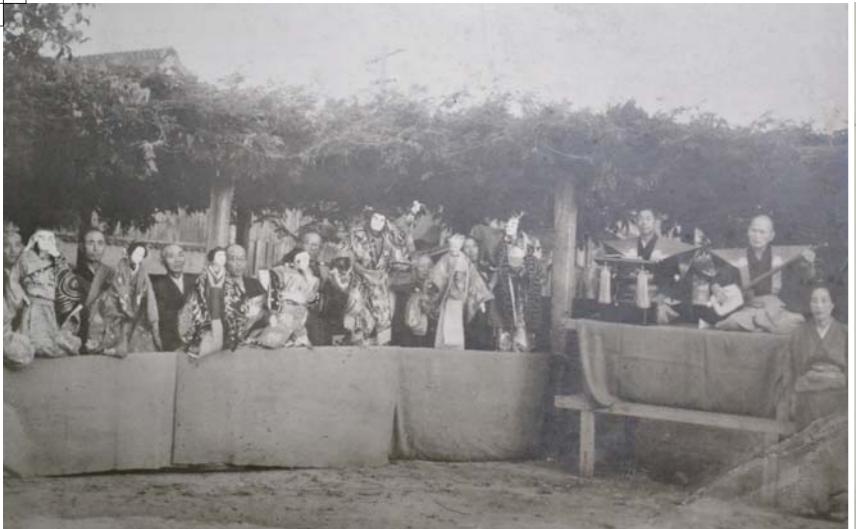


勝浦人形淨瑠璃



野外(現・古賀公民館前)で人形芝居を行っている様子。※おそらく戦前の画像



高さを保つため、主遣いは下駄を履いて演技を行う。(上)
保存会会長の小川さんは長唄三昧線を使用。弦を太くして音を響かせる工夫をしている。(右)



一体の人形を3人で操る、まさに三位一体での演技力が必要とされる。

農村での娯楽として一時は隆盛を迎えるも、戦後激動の時代を経て衰退していった勝浦の人形淨瑠璃。その伝統芸能が復活したのは、ほんの十数年前のこと。そして復活させたのは意外な人たちだった。

第7回 九州人形芝居フェスティバル

2014.1/19(日) 開場9:30/開演10:00
九州各地の人形芝居・淨瑠璃団体(全8団体)が一堂に会する祭典。観客が人形を操れるワークショップも実施。



【勝浦人形淨瑠璃保存会】

まいひょううらん。

演目/鬼一法眼三略の巻 五条橋の段

(あらすじ) 牛若丸は、父の追善供養と称して夜な夜な五条橋に出て千人斬りを行うと云い、その実は味方となる強い侍を探していました。この噂を聞きつけた武藏坊弁慶は、その曲者を懲らしめようと五条橋に出向きます。五条橋で牛若丸をさした人影を見つけた弁慶は通り過ぎようするとその人影が行く手を遮りました。

【勝浦アンビシャス広場】

演目/傾城阿波鳴門 巡礼歌の段

(あらすじ) 主帝により盗賊銀十郎と名を代え、子どもと離れて暮らしていた十郎兵衛と女房のお弓。十郎兵衛が不在の夜、宿を求めて巡礼者が訪れます。その巡礼者が国元に残してきた娘のお鶴と知りますが、親子と名乗れば盗賊の一昧として災難が降りかかると考え、泣く泣くお鶴を追いかえすことになります。

【チケット】全席自由500円 ※高校生以下無料
【取り扱い】カメリアホール、福津市中央公民館、宗像ユリックス

福津市文化振興財團 ☎ 0940-52-3321

あなたも勝浦人形淨瑠璃の世界を体験してみませんか?

伝統芸能の継承と大きさに考えることなく、単純に人形淨瑠璃の魅力を体感し、楽しんでみませんか?

■練習 / 毎週土曜日(19:00~21:00)

■場所 / 福津市文化会館 カメリアホール

☎ 0940-52-3321

2014.1/19(日) 開場9:30/開演10:00
九州各地の人形芝居・淨瑠璃団体(全8団体)が一堂に会する祭典。観客が人形を操れるワークショップも実施。
太夫の抑揚緩急で人物の性格や情景を表現するのに対し、三昧線は人形の心情を描き出す。そして人形が劇を視覚的に展開させるのだ
から通うメンバーを合わせ13人で活動中。勝浦小学校でも14年以降授業が設けられ、講師として保存会のメンバーが招かれている。

午後4時。勝浦公民館に、息の合った太夫節が響く。「コレ娘、また一度こちら向いてたも、ま一度こちら向いてたもの」。声の主は、授業以外でも人形淨瑠璃をやりたいと集まった「勝浦アンビシャス広場」の子どもたち。次の公演に向けて、母と娘の情愛が涙を誘う物語「傾城阿波鳴門」を練習中だ。太夫は床本に注意事項を書き込み、

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

人形遣いによって命を吹き込まれる

「この弁慶に大汗かかす、汝は何者」「我れこそは、源の牛若丸!」。五条大橋の上で二体の人形が火花を散らす。「鬼一法眼三略の巻 五条橋の段」は、人形淨瑠璃の中でも人気が高い演目のひとつである。

「今までにはゆっくりとした動作の

ことは力に満ち勇壮で活発な動きのこと。「今回取り組む演目には立ち回りや大振りな所作が多く、互いの人のタイミングや呼吸を合わせなければいけないので、そこも難しいですね。」と、勝浦人形淨瑠璃保存会の会長・小川千鶴子さん。

そもそも人形淨瑠璃とは、太夫、

三昧線、人形の三者が一体となっ

た日本の舞台芸術。語り手である

太夫の抑揚緩急で人物の性格や情

景を表現するのに対し、三昧線は

人形の心情を描き出す。そして人

形が劇を視覚的に展開させるのだ

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

形淨瑠璃がユネスコの無形文化遺産にリスト入りし、復興熱の高まりを後押しする。そして平成16年、当時の津屋崎町の援助を得て正式に勝浦人形淨瑠璃保存会が組織された。地域の伝統を、地域の力で復活させたのだ。発足10年目を迎えた現在は、北九州市や福岡市内から通うメンバーを合わせ13人で

地元伝統芸能の衰退と復活

鎌倉時代に淡路で産まれた人形淨瑠璃。以降九州各地に農村娯楽として伝わり、勝浦地区にも嘉永年間もしくは明治24年頃伝わった

が、一体の人形が三人で操られていることをご存知だろうか? 主遣いが頭と右手、左遣いが左手、足遣いが両足を担当し、三人が息を合わせて動きを

表現できるというわけだ。試しに弁慶を持たせてもらう想像以上にズシリと重く、優に5キロはある。この人形を掲げたまま演技を続けるのはかなりの重労働である。稽古後、人形遣いの額に光る大量の汗がそれを物語っていた。

だからこそ人間味のある所作まで複雑な操作も要求されるが

表現できるというわけだ。試しに弁慶を持たせてもらう想像以上にズシリと重く、優に5キロはある。この人形を掲げたまま演技を続けるのはかなりの重労働である。稽古後、人形遣いの額に光る大量の汗がそれを物語っていた。

かって地元の民衆を虜にしたこの人形淨瑠璃を、生で見たことがある人はどれほどのものだろう。普段なかなか触れることがない世界だが、来る1月19日に「九州人形芝居フェスティバル」が開催される。そのオープニングを飾るのは、勝浦人形淨瑠璃保存会と勝浦アンビシャス広場の子どもたち。保存会のメンバーが減少しつつあるいま、地元の伝統文化に触れた子どもたちの中から、将来有望な人形淨瑠璃の担い手が育つことを願つてやまない。



フェスティバルに向けて練習しているのは「勝浦アンビシャス広場」の3~6年生。(右)
三昧線は弾くタイミングを逃さないよう、太夫の声に集中する。(左)

